

様式 A 日本史（野崎）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	日本史 Japanese history		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般 人文・社会	授業形態・学期	講義・通年
	対象学生	2 年共通	必修・必修修の別	必修修
教員に かかわ る情報	担当教員・所属系	野崎かほる・非常勤講師		
	研究室等の連絡先	野崎：友朋会館 1 F 非常勤講師室（内線：8592） 連絡担当教員：角谷研究室（内線：8185）kadoya@tsuyama-ct.ac.jp		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	人文学／史学／日本史		
	学習教育目標との関 連	本科目は、学習教育目標「①教養豊かな実践的人間力の養成，⑤グロー バルな視点と社会性の養成，⑦コミュニケーション力・プレゼンテーシ ョン力の育成」に相当する科目である。		
	技術者教育プログラ ムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B) 地球的視野に立った人 間性の育成」「B－2：地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解 し，説明できること」である。		
	授業の概要	近代から現代までの日本史の過程を，グローバル化という視点から取り 上げ学ぶことを通して，未来を生きるわれわれの指針となるべき知識を 獲得し，地球的視野に立った人間性の育成を目指すものとなる。		
	学習目的	世界史の中で形成されていく近代日本の政治・外交・経済・社会の構造 的な特色とその変動を，自分なりに整理するとともに，ものごと・こと がらの意味を把握し，論理的にまとめあげていく思考力を身につける。		
	到達目標	1. 近代日本の政治・外交の基本的な特色と変動の過程を理解する。 2. 近代日本資本主義の構造的な特色と変動の過程を理解する。 3. 近代日本社会・文化の変動の過程を理解する。 4. 個別的なできごとの考察を通じて，歴史的な視野を獲得し，それにも とづいて主体的に生きるための判断力をつちかう。		
履修上の注意		本科目は、2 学年の課程修了のため履修が必須である。		
履修のアドバイス		1. 主観を排して，実際にあった事実をまずきちんと押さえること。 2. 1 のうえで，種々の事実を自分なりに整理し，まとめた歴史像， 人間像などを描くことができるようになること。 3. 過去について学ぶ意味を発見すること。		
基礎科目		世界史（1 年），倫理（1）		
関連科目		政治経済（2 年），異文化社会論Ⅰ（4），日本文化論（4），異文化社会 論Ⅱ（4），日本社会論（4），技術者倫理（5）		

授業にかかわる情報		
授業の方法		教科書の記述を熟読吟味することを柱として、補助プリント等も利用しながら、必要な情報を提示・整理し、到達目標に示した内容について、できるかぎり履修者みずから一つの像を導き出せるような進め方をとる。
授業計画	開講週	内容〔項目〕（指示事項）
	前期	1 週 • シラバスによるガイダンス、日本近代の出発点 開国 2 週 • 日本の近代化（1） 3 週 • 日本の近代化（2） 4 週 • 極東諸国と日本（1） 5 週 • 極東諸国と日本（2） 6 週 • 日露戦争と日本（1） 7 週 • 日露戦争と日本（2） 8 週 （前期中間試験） 9 週 • 経済と社会のしくみの特色（1） 10 週 • 経済と社会のしくみの特色（2） 11 週 • 帝国と植民地（1） 12 週 • 帝国と植民地（2） 13 週 • 第一次世界大戦と日本（1） 14 週 • 第一次世界大戦と日本（2） （前期末試験） 15 週 • 前期末試験の返却と解答解説
	後期	16 週 • 二つの大戦の間の日本（1） 17 週 • 二つの大戦の間の日本（2） 18 週 • 二つの大戦の間の日本（3） 19 週 • 二つの大戦の間の日本（4） 20 週 （後期中間試験） 21 週 • 日中戦争と日本（1） 22 週 • 日中戦争と日本（2） 23 週 • アジア・太平洋戦争と日本（1） 24 週 • アジア・太平洋戦争と日本（2） 25 週 • 占領下の日本（1） 26 週 • 占領下の日本（2） 27 週 近代日本を生きた人たち（1） 28 週 近代日本を生きた人たち（2） 29 週 近代日本を生きた人たち（3） （後期末試験） 30 週 • 後期末試験の返却と解答解説

教科書，教材等	教科書：『新日本史A』（実教出版） 参考書：とくになし
成績評価方法	年4回の試験 100%（内訳は25%×4） 定期試験では原則として持ち込みは許可しない。ただし，達成度を確認する試験を行う際，事前の積極的な準備が必要とされる出題のあるときに限り，自筆ノート等の持ち込みを許可する場合がある。
受講上のアドバイス	事件や人名，年号を記憶したことで歴史学習は終了ではない。逆にそこから学習が出発する。できごとの背景にある因果関係，影響などを総合的に理解し，また過去について学ぶ意味がどこにあるのかを考えることが必要である。

ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目 1	対象となる時期の政治・外交の構造や特色を総合的に理解・説明できる。		政治・外交上のできごとについて、基本的な説明ができる。		政治・外交上のできごとについて、基礎となる知識を獲得している。		政治・外交上のできごとについて、基礎となる知識が習得できていない。
評価項目 2	対象となる時期の経済の構造と特色を総合的に理解・説明できる。		近代日本経済史上の概念やできごとについて、基本的な説明ができる。		近代日本経済史について、基礎となる知識を獲得している。		近代日本経済史について、基礎となる知識が習得できていない。
評価項目 3	対象となる諸現象について、歴史的な見地から理解・説明できる。		社会や文化の諸現象について、基本的な説明ができる。		社会や文化の領域について、基礎となる知識を獲得している。		社会や文化の領域について、基礎となる知識が習得できていない。
評価項目 4	関心をもったできごとや人物について、歴史的見地から説明でき、総合的な評価を示すことができる。		関心をもったできごとや人物について、基本的な説明ができる。		関心をもったできごとや人物についての基礎的な知識を挙げることができる。		関心を持ったできごとや人物についての知識を挙げるができない。
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0